

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 12 月 28 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名 | 建築プログラミング小委員会 | 主 査 名：松下 聡 就任年月：2013 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 建築社会システム委員会 | 委員長名：平野吉信 主 査 名： |
| 設 置 期 間 | 2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>・設置目的：施設の所有者・利用者・事業主など竣工後に建築を活用する立場から見た価値の高い建築を創り上げるための、経済的・社会文化的価値発現メカニズムを探究すること。さらに、建築プログラミングの知見を広く、会員・社会に敷衍し、より価値の高い建築物の創造に寄与することを目的とする。</p> <p>・2016 年度計画： 1) 事例調査研究の実施、2) 公開研究会の開催、3) ネットでの情報発信・共有</p> | |
| 委員構成 (委員名 (所属)) | <p>委員公募の有無：有</p> <p>松下聡 (福井大学)、柳澤要 (千葉大学)、山田哲弥 (清水建設)、井上誠 (宮城大学)、児玉達朗 (東京電力)、末廣健一 (山陽学園大学)、津島光 (近畿大学)、溝上裕二 (ジョーンズラングラサール株式会社)、柳父行二 (セカンドカード研究処)、増村昭二 (フリー)、安藤亨(三重県)、柳沢和彦 (武庫川女子大学)</p> | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | <p>公共施設プログラミングWG：小委員会と同時開催し、公開研究会の企画、実施、資料作成などの実務を担当するとともに、調査結果の分析・モデル化などの個別の研究テーマについても、各メンバーが自主的に活動する。</p> | |
| 2016 年度予算 | 60,000 円 | <p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/keizai/prg/</p> |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|--|
| 委員会開催数 | 7 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画 | 1. (名称) みんなで創る総合博物館～三重県総合博物館のプログラミング～ 参加者数 29 名 |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パ ブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係) | <p>1. 事例調査 関係者へのヒアリング (三重県総合博物館)</p> <p>2. 公開研究会の開催 みんなで創る総合博物館 ～三重県総合博物館のプログラミング～ (11 月 19 日)</p> <p>3. HP の更新、委員会資料ファイルの共有 (委員、WG)</p> |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | <p>1. 分野の世代交代を進める必要がある。→WG 委員を増強、若年研究者に参加機会。</p> <p>2. 成果の公表方法、他分野・他学会との連携、新たな課題の創出。</p> <p>3. 委員会及び WG の online storage の使い勝手を改善していただきたい。</p> |

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。